# 釧路川流域の未来の川づくり(グランドデザイン)案

釧路川流域委員会では釧路川水系河川整備計画を策定していくために、釧路川流域が目指すべき長期の未来像について議論を進めてきましたが、流域の現況や課題の整理、地域住民の意見等を踏まえ、次の基本的な方向性にそった未来の川づくりを進めていくことを提案します。

**【基本的な方向性】**

**1.生命(いのち)ある川づくり**　　**3.流域が一体となった川づくり**

**2.暮らしと自然との共生**

## (1) 生命(いのち)ある川づくり

**～〔イトウやタンチョウが生息する自然環境を保全・再生するなど、生命(いのち)ある川とし、次世代に継承していきます〕**

釧路川流域の最上流部と湿原及びその周辺の緑地は生態系上特に重要で、国立公園やラムサール条約登録湿地となっており、イトウやオジロワシ、タンチョウ等が生息しています。このかけがえのない自然環境を生態系に十分配慮しながら保全・再生するなど、生命(いのち)ある川とし、次世代に継承していきます。

## (2) 暮らしと自然との共生

**～〔人々の生活や産業活動と自然との共生を図りながら、森林や湿原等、地域の共有財産を保全・継承し、地域社会の安定的な発展を目指します〕**

流域の森林や釧路湿原は、多様な生態系を育むと共に流水の安定に大きな役割を果たしています。釧路川流域は漁業や酪農が基幹産業となっており、流域の発展に大きく貢献していますが、一方では産業活動に伴う河川水への影響が懸念されるとともに、洪水や多発する地震等の自然災害に対しては、安全な生活基盤が求められています。また、釧路川流域の自然環境の美しさ、魅力を求めて訪れる人々との共生も大切な課題です。このため、人々の生活や産業活動と自然との共生を図りながら、美しく豊かな森林や湿原等の地域共有財産を保全・継承し、地域社会の安定的な発展を目指します。

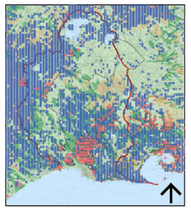
## (3)流域が一体となった川づくり

**～〔流域の個性、多様性を活かしていくために、流域が一体となった川づくりを目指します〕**

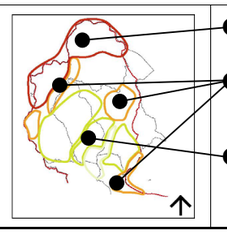
上流域の阿寒国立公園の原生林、屈斜路湖とそれを源流とする釧路川、下流域に広がる釧路湿原は北海道の美しさと雄大さを代表する優れた資源であり、さらに道東の中核的な都市機能を担う近代的な都市地域から物流拠点としての港湾にいたる釧路川流域全体には、様々な自然の活動、人々の生活、経済の営みが展開されています。今後の川づくりにおいては、これら流域内の個性、多様性を活かしていくために、必ずしも従来の仕組みや枠組みにとらわれない、流域が一体となった川づくりを目指していくことが必要です。

〔地域資源評価〕

**環境資源（生態系）**

| 現　況 | 評　価 |
|---|---|
|  <br>• 原生的自然域の分布<br>• 中流域は植生がないと表土が流出<br>• 山頂や沿岸地域は寒冷地の風衝地<br>• 湿原周辺の森林は生態系の緩衝緑地<br>• 湿原は養分や汚濁負荷が集中 | **流域の栄養分が堆積する湿原**や水辺と、それを取り囲む台地や丘陵地の森林の関係に留意する必要がある |

**流　域　特　性**

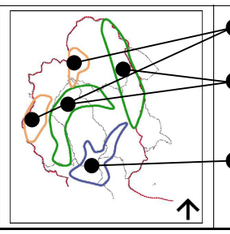


- 流域の**最上流部と湿原周辺は原生的自然域に覆われ**ており、流域のほぼ半分を占める
- 中流域には牧草地や植林が多く、また、伐採等によって生態系に大きな影響を与えやすい地域が分布している
- 特に、**生態系のコアである湿原**は、周辺に幾重にも自然林など生物生息に重要な緑地に囲まれており**豊かな自然環境が維持**されている

**水資源（水源涵養）**

| 現　況 | 評　価 |
|---|---|
| <br>• 屈斜路湖周辺は急峻で、降雨が短時間で流出<br>• 丘陵地・山地は浸透性や地下水涵養が高い<br>• 台地縁辺部では山地に降った雨が湧出し、河川に合流<br>• 流域は水収支が安定 | **貯水機能を有する湿原**と、河川や湿原への**水の供給源となっている森林**や透水性の高い地盤の地域の関係に留意する必要がある |

**流　域　特　性**



- 最上流地域の森林は、降雨が短時間に川へ流れ込むのを防いでいる森林が多い
- 中上流部においては、森林とともに地層内に降雨を一時貯留している地域があり、**河川水の重要な涵養源**となっている
- 釧路湿原は流域の貯水機能をはたしており、流域全体の水収支の安定に大きな役割を果たしている

〔現況及び課題〕

—現　況—

- 夏期は霧が多く、湿潤冷涼で日照時間は少ない
- 冬期は乾燥寒冷
- 動植物は豊富で、**特定種はイトウやオジロワシ、タンチョウ**等
- 湿原特有の植生ではイヌイトモやヤチボウズ、クシロハナシノブ等
- 屈斜路湖や支川の周辺など、未利用地は山林・原野が大半
- 自然林は森林の 60%
- 釧路湿原は**国立公園、ラムサール条約登録湿地**に指定
- 国立公園は 2 箇所、鳥獣保護区は 6 箇所、天然記念物は 6 項目が指定
- 屈斜路湖と釧路湿原の 2 つの水がめを有していることもあり、河川流況は安定
- 湿原の保水力は低下
- 湿原は火山灰等の浮遊砂が堆積し易く、乾燥化の一要因

—課　題—

- **ラムサール条約登録湿地等の豊かな自然環境等の保全・再生**
- 人工針葉樹から地域固有の広葉樹への置換
- **水辺林の整備**
- 河畔林や瀬・淵の保全
- **生態系に配慮した河道改修**
- 河道の蛇行復元や再自然化
- 自然生態系に配慮した水質の確保
- ワイズユース理念の啓蒙
- 上流部の落差工には魚道整備の検討

〔流域の計画〕

- 北海道の美しさと雄大さを引き継ぐ環境の保全
- **湿原やラムサール条約登録湿地等の自然環境の保全・再生**
- 環境保全活動の推進
- 自然利用的な整備
- **自然を学び憩う場**として、海外にも知られる地域
- **自然環境に配慮**した自然公園の整備促進
- 河道の再自然化、多自然型川づくりの推進
- 魚道の整備等による河川環境の保全整備
- ワイズユースの理念に基づく、自然との共生
- 湿原の保護・保全に関する研究活動や国際協力活動の展開
- 釧路湿原等の**自然環境を次世代に継承**
- 親しまれる水辺空間の創出

〔GI による住民意識調査※〕

- **自然の昔ながらの水辺空間**
- **生きた川**
- **生命を尊重する川**
- 釧路湿原の大動脈
- 優位性のある川
- 大いなる川・母なる川
- **河川環境・水循環**の保全
- 恵みの水をもたらす川
- 後世に残すべき釧路川と湿原
- 残された貴重な自然を守り次代に継承
- 住民自身が再生する清流
- 地域共有の財産の保全・継承
- イトウの減少など、自然環境が損なわれつつある川
- 川で泳ぐ魚を感じられる川
- 蛍が棲む、サケが遡上する川
- 川に上るサケを代々子供に伝えられる川
- 子供たちが自然体験できる川
- 住民主体で川を保全・再生する場
- 大自然や環境を考え、学び実践する場、伝える場

※GI とはグループインタビュー(集団面接法)である。

河川水の重要な涵養源となる流域の最上流部と、貯水機能をはたし、流域の栄養分が堆積する湿原周辺は、原生的自然域に覆われており、湿原や水辺が生態系のコアとなっている。

国立公園やラムサール条約登録湿地等の自然環境は、イトウやオジロワシ、タンチョウ等の貴重な動植物の生息･生育の場となっている。このかけがえのない自然環境の保全・再生が望まれるところであり、生態系に配慮した河道改修が必要とされている。

湿原やラムサール条約登録湿地等の自然環境を生態系に十分配慮しながら保全・再生し、次世代に継承していくと共に、自然を学び憩う場として活用する。

生命を尊重する川や生命ある川としての河川環境や水循環を保全し、昔ながらの水辺空間に近づけることが望まれている。

イトウやタンチョウが生息する自然環境を保全・再生するなど、生命(いのち)ある川とし、次世代に継承していきます

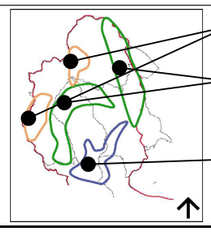
釧路川流域の最上流部と湿原及びその周辺の緑地は生態系上特に重要で、国立公園やラムサール条約登録湿地となっており、イトウやオジロワシ、タンチョウ等が生息しています。このかけがえのない自然環境を生態系に十分配慮しながら保全・再生するなど、生命(いのち)ある川とし、次世代に継承していきます。

〔地域資源評価〕

**水資源（水源涵養）**

| 現況 | 評価 |
|---|---|
| ● 屈斜路湖周辺は急峻で、降雨が短時間で流出<br>● 丘陵地・山地は浸透性や地下水涵養が高い<br>● 台地縁辺部では山地に降った雨が湧出し、河川に合流<br>● 流域は**水収支が安定** | **貯水機能を有する湿原**と、河川や湿原への水の供給源となっている森林や透水性の高い地盤の地域の関係に留意する必要がある |

**流域特性**

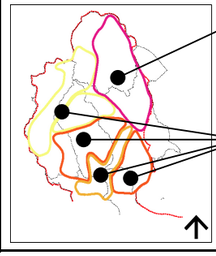


- 最上流地域の森林は、降雨が短時間に川へ流れ込むのを防いでいる森林が多い
- 中上流部においては、森林とともに地層内に降雨を一時貯留している地域があり、**河川水の重要な涵養源**となっている
- 釧路湿原は流域の貯水機能をはたしており、流域全体の水収支の安定に大きな役割を果たしている

**防災資源（土砂流出・堆積）**

| 現況 | 評価 |
|---|---|
| ● **摩周湖周辺区域は地層が新しく土砂流出しやすい**<br>● 湿原北西部は森林の荒廃で、土砂流出しやすい<br>● 湿原周辺区域はやわらかい地層で土砂流出しやすい<br>● 下流域は土砂が堆積しやすい | **流出した土砂の堆積しやすい湿原**や河川の下流域と、潜在的に**土砂が流出しやすい地域**（土砂の供給源）の関係に留意する必要がある |

**流域特性**



- **土砂の供給源**としては、大きく三つの素因があるが、流域の大半の面積を占める
  - 地質が新しいため
  - 地質の風化が著しいため
  - 柔らかい砂や粘土などの地質の性格上
- その一方で運ばれた土砂は釧路川やその支流に**堆積**し、最終的に最も微細で大量の粘土や砂が**湿原に流入**する

森林は河川水の重要な涵養源となっており、釧路湿原は貯水機能を有しており、水収支の安定に大きな役割を果たしている。近年、上流域の土砂の流出による河川や湿原への影響が見受けられる。

〔現況及び課題〕

—現　況—

- 夏期は霧が多く、湿潤冷涼で日照時間が少ない気象条件を反映し、酪農等が営まれている
- 利用地は耕地、牧場、宅地が多い
- 近年、湿原の面積は減少し、乾燥化により植生も変化
- 平成 12 年では約 24 万人
- 釧路市の人口は約 19 万人と流域全体の 8 割
- **漁業と酪農は流域を支える基幹産業**
- **漁業は北海道の生産高の 9%**
- シシャモは北海道の水系別で 63%と第 1 位の生産高
- **根室圏を含む、わが国最大の酪農地帯**
- 酪農は乳用牛が主流
- 乳用牛頭数及び生乳生産量は標茶町・弟子屈町・鶴居村が帯広市を上回る
- 人工林は山林面積の 30%
- 商業は商店数・従業者数とも小売業、販売額では卸売業が最も多い
- 工業は食料品製造業やパルプ・紙・紙加工品製造業が多いが、昭和 60 年以降減少傾向
- 近年の観光は SL 運行やオホーツクの流氷観光と一体となったツアー、カヌー利用等が主流
- 国立公園は 2 箇所、鳥獣保護区は 6 箇所が指定
- **多発する地震**は平成 5 年の釧路沖地震が最大
- 洪水被害は戦前が大正 9 年、戦後は昭和 22 年が最大で、近年大きな被害はない
- 湿原中心のカヌーやバードウォッチング等が盛ん
- 公園緑地や交流施設が整備

—課　題—

- 生活環境の向上
- 福祉社会の形成に向けた、施策の展開
- 生産性の高い酪農やつくり育てる漁業体制の促進
- 林業や水産業、酪農が連携し、地域が一体となって**河川や海の環境を保全**
- **産業活動に伴う河川等への影響が懸念**
- 生態系豊かな森林環境の回復(地域固有の広葉樹の植林)生態系と共存する河道改修
- **自然環境の美しさ、魅力を求めて訪れる人々との共生**
- 洪水や地震災害対策を構築し、公共事業においては、地域住民の意識を反映した事業の促進
- 豊かな自然と共生し、**安全な生活基盤を促進**
- 体験型観光のネットワーク化の促進
- 公共施設のユニバーサルデザイン化

釧路川流域は道内でも重要な漁場や、根室圏を含むわが国最大の酪農地帯を有しており、流域を支える基幹産業となっている。これらの産業は流域の発展に大きく貢献しているが、一方では産業活動に伴う、河川水への影響が懸念されている。また、多発する地震等の自然災害に対しては、安全な生活基盤の促進が求められている。さらに自然環境の美しさ、魅力を求めて訪れる人々との共生も重要な課題の一つである。

〔流域の計画〕

- 北国らしい特色ある自然や機構を生かした多自然居住地域の創造
- **食糧供給基地**として、生産性の高い**大規模土地利用型農業の展開**
- 環境保全型農業の推進
- 機能を生かした適地企業立地の促進
- 多様な森林整備の推進
- 河川周辺の樹林帯等の保全
- 生産性の高い林業の育成
- **つくり育てる自然管理型漁業の展開**
- **内水面漁業**による増殖事業の推進
- 恵まれた農水産資源を生かした地域産業の推進
- 農漁村生活の快適性の向上
- **資源・環境循環型の産業づくり**
- 家畜ふん尿等、**農業系廃棄物の適正処理**の推進
- **環境資源への負荷軽減**
- **人々の生活や産業活動と自然との共生**
- アウトドア活動拠点や体験型観光のネットワークの推進
- 通年型・滞在型観光の転換
- 特徴を生かした観光関連施設の整備促進
- **地域社会の安定的な発展**
- 下水道高度処理水等の河川への還元
- **ワイズユースの理念を意識した基盤整備**
- 護岸の整備や堆積土砂への対策推進
- 被害を最小限にする防災・消防体制の整備
- 川づくりへの住民参加
- 地域防災計画策定や防災備蓄体制の確立
- 防災体制の整備とボランティア活動の充実

地域社会の安定的な発展を目指し、流域の基幹産業である漁業はつくり育てる自然管理型漁業や内水面漁業を推進しており、酪農は食糧供給基地として、大規模土地利用型の農業を展開している。
一方、流域では農業系廃棄物等の資源・環境循環型の産業づくりやワイズユースの理念に基づく基盤整備を進めるなど、環境資源への負荷軽減が求められている。

〔GI による住民意識調査※〕

- 道民・国民の財産
- **地域の共有財産**
- 地域が誇りに思う川
- **生活や経済、観光資源となる河川環境**
- 憩いや安らぎを与える川
- **自然と開発が共存する川**
- 反省を生かす川
- おいしい水を創る川
- 漁業を支える川
- 等しく川の恵みを受けられる地域
- 川を守るための森づくり
- 子供たちが自然体験できる場
- 子供が水と親しめる場
- 子供たちが安心して水とふれあえる場
- 住民参加での川の保全と利用
- 環境、水循環に合わせた保全
- 川や川を守る生活の継承
- 開発と自然保護の両立・共生が重要
- 後世に残すべき釧路川と湿原
- 残された貴重な自然を守り次世代に**継承**
- 地域別の機能分担が必要
- 釧路川のどこでも楽しめる空間と環境づくり

※GI とはグループインタビュー(集団面接法)である。

流域住民は生活や経済、観光資源となる河川環境を、自然と開発が共存する川として位置づけ、地域共有の財産として保全・継承することを望んでいる。

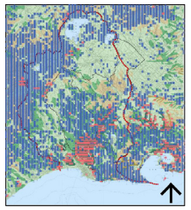
人々の生活や産業活動と自然との共生を図りながら、森林や湿原等、
地域の共有財産を保全・継承し、地域社会の安定的な発展を目指します

流域の森林や釧路湿原は、多様な生態系を育むと共に流水の安定に大きな役割を果たしています。釧路川流域は漁業や酪農が基幹産業となっており、流域の発展に大きく貢献していますが、一方では産業活動に伴う河川水への影響が懸念されるとともに、洪水や多発する地震等の自然災害に対しては、安全な生活基盤が求められています。また、釧路川流域の自然環境の美しさ、魅力を求めて訪れる人々との共生も大切な課題です。このため、人々の生活や産業活動と自然との共生を図りながら、美しく豊かな森林や湿原等の地域共有財産を保全・継承し、地域社会の安定的な発展を目指します。

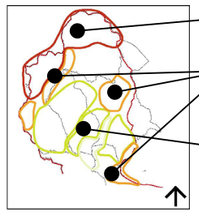
## — (3) 流域が一体となった川づくり —

〔流域資源評価〕

**環境資源（生態系）**

| 現　況 | 評　価 |
|---|---|
|  <br>• 原生的自然域の分布<br>• 中流域は植生がないと表土が流出<br>• 山頂や沿岸地域は寒冷地の風衝地<br>• 湿原周辺の森林は生態系の緩衝緑地<br>• 湿原は養分や汚濁負荷が集中 | 流域の栄養分が堆積する湿地や水辺と、それを取り囲む台地や丘陵地の森林の関係に留意する必要がある |

**流　域　特　性**

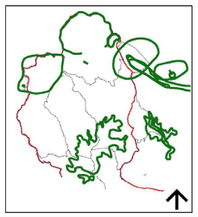


- 流域の**最上流部と湿原周辺は原生的自然域に覆われ**ており、流域のほぼ半分を占める
- 中流域には牧草地や植林が多く、また、伐採等によって生態系に大きな影響を与えやすい地域が分布している
- 特に、**生態系のコアである湿原**は、周辺に幾重にも自然林など生物生息に重要な緑地に囲まれており**豊かな自然環境が維持**されている

**景観資源（自然景観）**

| 現　況 | 評　価 |
|---|---|
| <br>• 火口だった屈斜路湖と周辺の火山地形<br>• 縄文海進や海退により形成した低層湿原 | 土砂の堆積で形成される開けた平野や台地と、火山活動によって形成された変化に富む山地や丘陵地の特性の違いに留意する必要がある |

**流　域　特　性**



それぞれ成因の違う火山地形と低層**湿原は**流域内の**多様で優れた景観**を生み出し、**国内有数の観光資源**としても知られているが、それらの成因が環境資源、水資源、防災資源の各特性の基礎ともなっており、景観（景色）が流域の特性そのものを表している

〔現況及び課題〕

—現　況—

- **釧路川源流となる屈斜路湖は阿寒国立公園区域**に含まれる
- **下流域には地域を代表する釧路湿原が広がる**
- 流域は 6 市町村に跨る
- 釧路川は釧路開建(国)と釧路土現(北海道)で管理する一級河川
- 流域には釧路自然保護協会やトラストサルン釧路等の市民団体が活動
- 近年の観光は SL 運行やオホーツクの流氷観光と一体となったツアー、カヌー利用等が主流
- 国立公園は 2 箇所、鳥獣保護区は 6 箇所が指定
- **多発する地震**は平成 5 年の釧路沖地震が最大
- 流域の保水力は低下し、河口閉塞が懸念
- 屈斜路湖等、湖底にはヘドロ状の堆積物が増加

—課　題—

- 流域一体で捉える釧路川
- **関係機関が一体となった管理体制の確立**
- **流域住民・企業・NPO 団体等の参加と連携**
- 林業や水産業、酪農が連携し、地域が一体となって**河川や海の環境を保全**
- **産業活動に伴う河川等への影響が懸念**
- 湿原保全に関する国際的協力活動の持続的な取組み
- **従来の枠組みにとらわれない川づくり**
- 流域市町村との関わりが深い都市間での交流
- 上・中・下流ごとに問題点・地域特性の整理
- 優れた自然環境を生かした整備
- 上流部の落差工には魚道を整備の検討
- 河川管理マップの作成など、住民にもわかりやすい情報整理
- 国立公園の管理と河川管理を**連携させて、質の高い流域管理の実現**

〔流域の計画〕

- **北海道の美しさと雄大さを引き継ぐ環境**の保全
- ノーマライゼーション中心の地域福祉活動の推進
- 地域間・国際交流事業の推進。
- **上・下流の連携**による水源地域等の保全
- 林業と水産業、酪農が連携し、**地域が一体となって**河川や海の**環境を保全**
- 釧路港など、**物流機能**の拡充整備
- **道東の中核都市**間の連携強化
- 個々の責任で支える**環境保全**型社会の構築
- 地域の特性と自主性を尊重した広域連携の強化
- **流域内の個性・多様性を活かした川づくり**
- 流域市町村との連携による**広域的な連携**事業の推進

〔GI による住民意識調査※〕

- 地域別の機能分担が必要
- 地域の機能分担による自然環境の保全
- **上・中・下流、支流が一体**となって考える場
- 上下流での一体的なつながり
- 流域を縦貫する川
- 流域一体のつながり
- 上流から下流まで一貫した環境・水質の維持が必要
- ここの地域事情を考慮すべき川
- 一貫した釧路川の想像が必要
- 流域全体での一体感が重要
- 流域間で学ぶ川
- 川を生かし、守るための一体的な組織や体制づくり
- 住民や専門家による流域を一体とした議論が必要
- 各地域の**個性や特徴を生かした**川づくり
- 流域全体で議論できる川
- 住民参加で**考える川の将来**

※GI とはグループインタビュー(集団面接法)である。

原生的自然域に覆われた上流部や湿原周辺は多様で優れた景観を創出し、国内有数の観光資源となっている。

上流域の阿寒国立公園の原生林や屈斜路湖とそれを源流とする釧路川、下流域に広がる釧路湿原は地域を代表する優れた流域資源である。今後もこれら環境などを生かして、関係機関や流域住民が連携する質の高い流域管理の実現が望まれている。

流域は道東の中核的な都市機能を担う近代的な都市地域から物流拠点としての港湾にいたるまで、様々な自然の活動、人々の生活、経済の営みが展開されている。
北海道の美しさと雄大さを引き継ぐ釧路川流域は、上・下流の連携、広域的な連携等、流域が一体となった環境保全の推進や流域内の個性・多様性を活かした川づくりが望まれている。

釧路川は個性や特徴を生かし、上・中・下流、支流を含め、流域が一体となり、川の将来を考えていくことが望まれている。

流域の個性、多様性を活かしていくために、
流域が一体となった川づくりを目指します

上流域の阿寒国立公園の原生林、屈斜路湖とそれを源流とする釧路川、下流域に広がる釧路湿原は北海道の美しさと雄大さを代表する優れた資源であり、さらに道東の中核的な都市機能を担う近代的な都市地域から物流拠点としての港湾にいたる釧路川流域全体には、様々な自然の活動、人々の生活、経済の営みが展開されています。今後の川づくりにおいては、これら流域内の個性、多様性を活かしていくために、必ずしも従来の仕組みや枠組みにとらわれない、流域が一体となった川づくりを目指していくことが必要です。